



- ▶ 研修医数 1年目 19名、2年目 18名
- ▶ 昨年度マッチング受験者数 86名
- ▶ 研修医の主な出身大学

北海道大学、旭川医科大学、札幌医科大学、弘前大学、秋田大学、岩手医科大学、山形大学、東北大学、福島県立医科大学、東京医科歯科大学、東京医科大学、東京女子医科大学、日本医科大学、東京慈恵会医科大学、東邦大学、帝京大学、順天堂大学、杏林大学、日本大学、昭和大学、埼玉医科大学、獨協医科大学、聖マリアンナ医科大学、国際医療福祉大学、北里大学、東海大学、群馬大学、山梨大学、筑波大学、新潟大学、金沢大学、富山大学、福井大学、浜松医科大学、名古屋大学、名古屋大学、信州大学、藤田保健衛生大学、近畿大学、滋賀医科大学、三重大学、鳥取大学、川崎医科大学、島根大学、広島大学、徳島大学、産業医科大学、長崎大学、熊本大学、鹿児島大学、佐賀大学、大分大学、宮崎大学、琉球大学、漢陽大学、Shahid Beheshti University

研修プログラムの特色

今後数十年の医師としての人生を歩んで行くことをふまえ、医師としてのプロフェッショナリズムに多角的な視点で気づくこと、そしてそれを自分のものとすることを主眼としたプログラムです。そのために総合診療科研修・救急科研修&当直研修・地域医療研修を3本の柱とし、自ら責任をもって医療を行う姿勢を重視しています。総合診療科では主治医と同等の立場で診療を行うことで、医師の責任の重さや決断の難しさを学びます。救急科・当直研修では2年間にわたって搬送患者のファーストタッチを行い、どのような状況であつても冷静にかつ適切に判断する力を磨いていきます。地域医療研修を北海道・岡山県・鹿児島県などで行うへき地・離島研修としていることは本院の研修の特にユニークな点です。地域の医療ニーズ、訪問診療などの地域に密着した医療、医療資源の少ない地域での医療の特徴を学び、さらに異なる環境での研修を通じ医師としての自信を深めるチャンスとなります。

プログラム例 上尾中央総合病院臨床研修プログラム / 募集定員: 19名

	1-4週	5-8週	9-12週	13-16週	17-20週	21-24週	25-28週	29-32週	33-36週	37-40週	41-44週	45-48週	49-52週
1年目	内科系(糖尿病内科・血液内科・消化器内科・循環器内科・脳神経内科・腎臓内科・腫瘍内科・総合診療科)から2科以上選択 ※総合診療科は12週必修								救急部門		麻酔科		外科
2年目	外科	小児科	産婦人科	地域医療 ※1	精神 ※2	選択期間							

必修: 内科系24週、救急科12週、麻酔科8週、外科8週、小児科4週、産婦人科4週、精神科4週
 選択: 24週~28週(糖尿病内科、血液内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、腎臓内科、腫瘍内科、総合診療科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、産婦人科、耳鼻いんこう科、麻酔科、放射線診断科、臨床検査科、救急科、病理診断科、地域研修)
 ※当院で決めた必須科目の外科については、4週は外科を必須として4週については外科系(外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科)の中から選択できることとする。
 ※1 地域研修は必修4週、選択4週まで(合計8週選択可能)
 ※2 精神科研修は埼玉県立精神医療センター・帝京大学医学部附属病院で実施する。

■ 研修医の処遇

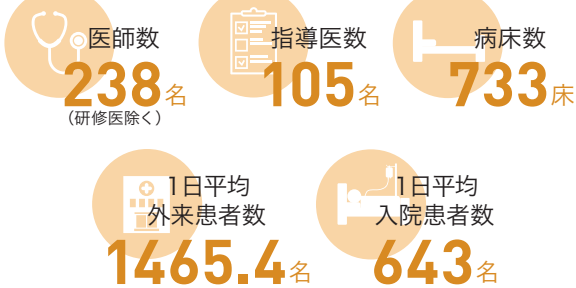
給与	1年目:40万円/月、2年目:43万円/月	当直	あり(4回程度/月)
諸手当	当直手当、日勤手当	休暇	有給休暇(入職3カ月後:3日、6カ月後:7日、初年度:10日支給) その他(特別休暇・年末年始・産前産後休業・育児休業・介護休業)
保険	埼玉県医師会健康保険組合 厚生年金保険、雇用保険 労災保険適用、厚生年金基金等企業年金 医師賠償責任保険(病院において加入)	宿舎	当院規定(5万円を上限として、家賃半分を支給する ※上尾市内在住限定)
勤務時間	9時~17時30分	その他	処遇:常勤、健康診断:年2回、 医師賠償責任保険:病院において加入・個人加入は任意、 学会・研究会等への参加:可、参加費用支給有、 医療費見舞金制度、24時間保育園、 保養所(軽井沢/那須/熱海)、院内旅行、その他

■ 主な臨床研修協力病院・協力施設

- 埼玉県立精神医療センター
- 医療法人 徳洲会 徳之島徳洲会病院
- 医療法人 徳洲会 日高徳洲会病院
- 医療法人 徳洲会 帯広徳洲会病院
- 医療法人 徳洲会 与論徳洲会病院
- 医療法人 徳洲会 石垣島徳洲会病院
- 社会医療法人 緑社会 金田病院
- 医療法人 徳洲会 小豆島中央病院
- 社会医療法人 哲西会 哲西町診療所
- 市立輪島病院 他

■ 病院の概要

NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)による認定 / 無



■ 診療科

内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病内科、腎臓内科、血液内科、呼吸器内科、呼吸器腫瘍内科、肝臓内科、アレルギー疾患内科、感染症内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、心療内科、小児科、産婦人科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、消化器外科、肝臓外科、乳腺外科、呼吸器外科、気管食道外科、肛門外科、内視鏡外科、小児外科、泌尿器科、女性泌尿器科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、眼科、形成外科、美容外科、皮膚科、麻酔科、救急科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、臨床検査科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、総合診療科(院内標榜)、膠原病内科(院内標榜)、臨床遺伝科(院内標榜)

■ 主な認定施設

地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、災害拠点病院、ロボット心臓手術実施施設、ダヴィンチ手術症例見学施設(前立腺摘出術、膀胱全摘除術、ロボット支援下膝頭十二指腸切除術、ロボット支援下腓体尾部切除術)、埼玉 DMAT 指定病院 他

■ 当院の魅力

『自立』『責任』『信頼』

当院の初期臨床研修のキーワードです。医師としての基盤となる3つの資質を身につけ、伸ばすことを約束するプログラムです。

『自立』 救急外来では年間約8,400件の救急車を研修医たちがファーストタッチで捌きます。指導医は裏方の役目に徹し、研修医がまさしく自分自身の力で診療する能力を養います。
 『責任』 総合診療科研修ではほぼ主治医に匹敵する仕事を任せられます。治療方針の決定やICも研修医の仕事です。甘えは許されません。
 『信頼』 地域医療研修では自外来卒をもちます。患者さんひとりひとりと密接な関係を構築することが求められます。

◎「ほどほど」「そこそこ」という研修を求めています。「徹底的に」学んでください。サポートもしっかり行います。臨床研修管理委員会とは別に臨床研修指導者委員会を設置し、5~10年目の若手医師、看護師、メディカルスタッフが研修医ひとりひとりに目を向けて研修の様子をいつも見守っています。



女性医師支援

当院では、女性医師の働きやすい環境を整えるため、以下の規定があり、ひとりひとりの研修医にそれぞれの働きやすい環境を提供できるようにサポートします。

- 妊娠婦への配慮 -
- 【妊娠中】
母体保護の観点から、妊娠中の研修医は原則として当直研修を行わない。ただし、本人より当直以外の時間外勤務の希望があれば臨床研修センター長 および救急総合診療科責任者との面談・調整の上、土曜日の午後や日祝日の日中等に研修を行っても良いこととする。
- 【育児中】
育児中の当直は研修医および児の状況を勘案し、臨床研修センター長および救急総合診療科責任者との面談・調整の上、当直研修実施の有無および回数 を決定することとする。
- ・短時間勤務制度、院内保育の設置、当直免除
- ※ 実績あり。現在も当院で勤務しています。



病院見学、その他イベント・説明会等の情報

【見学】
ホームページ上の初期臨床研修、
見学申し込みはフォームより
お申込みください。



連絡先

病院名 上尾中央総合病院
 所属 人事課 秘書係(臨床研修担当)
 住所 〒362-8588 埼玉県上尾市柏座1-10-10
 TEL 048-773-1111(代表)
 FAX 048-773-2952

E-mail ishi_jinji@ach.or.jp
 URL https://www.ach.or.jp
 アクセス JR高崎線 上尾駅西口より徒歩3分



研修責任者 から メッセージ

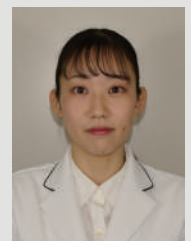


プログラム責任者
黒沢 祥浩

当院の研修医たちのゴールは「たくましさ」です。未来の自分が、どのような苦境にも負けることなく、周囲からの信頼を得て医療を遂行するためのスキルです。そして、それは生涯にわたって彼らを助けてくれることでしょう。

私たちが指導医は彼らの「たくましさ」の獲得を援助します。「自ら考え行動する」という研修医の姿勢を見守り、ときに手を差し伸べるのが私たちの大切な役割です。研修医たちはもがきながら多くを学び、成長し、そして答えをみつけたときに達成感と明日へのモチベーションが生まれていきます。救急科研修でくじかれ、総合診療科研修で悩み、離島へき地研修で新たな発見をしていく。ダイナミックな研修プログラムです。

先輩研修医 の声



研修医 1年目

星川 真帆

もう医者になったんだ。
 病棟ではじめて看護師さんから「先生」と呼ばれたとき、少し間を置いて自分のことか気づきました。「先生、モニターを外して良いですか」「このお薬は中止して良いですか」問われて返事をして、後からカルテで 星川医師に確認し〇〇中止との記載をみたときはとてつもない責任を感じ、いても立ってもいられず、すぐさま上級医に再確認しました。

はがきの医師免許(仮)を手にして、分からないことだらけで始まった研修。強い支えになっているのは先輩・同期の存在です。たった1年差であることを信じられないほど頼れる先輩たち、助け合って一緒に高め合える同期たちと、不安を感じる暇もなく日々たくさん意見と杯を交わしながら働いています。

退勤後や休日は得た知識をまとめる、新たに調べる時間をとりつつ、同僚・友人とご飯に行き、学生時代からの趣味も継続しています。上尾はいわゆるハイパー病院と言われますが、メリハリある働き方ができ、野戦病院とは全く違います。ただ、忙しい勤務の合間にも私生活を充実させる研修医が集っていて、各々の生き方がハイパーなのだろうと思います。

飲み過ぎに気をつけながら、先輩・同期、まだ見ぬ後輩と全力で2年間の研修を堪能する所存です。



研修医 1年目

大根田 優輝

「猫背を伸ばして、自信をもって堂々としなさい」
 入職式で先生から自分へ向けられた第一声です。初見で自分とわかるほどの猫背でございます。

入職してから2か月が経ちました。自信?そんなもの入職してから一度も感じたことはありません。2か月間救急科を回りましたが、何ができるようになったかと言われると自信をもって言えるものは何もありません。毎日、毎患者、不安を抱えながら初療にあたります。上級医の先生に問診の不足を指摘され、手技は一人ではままならないこともあり、検査結果の解釈も甘々、他科へのコンサルトでも怒られます。果たして何から手を付ければいいのか。そんな中、2年生の先輩は自分の初療のバックアップをしながら、サクサクと自身の受け持ちの患者さんの診察を進めていきます。自分ができなかった手技を「貸して」と言ってサラッとこなしていきます。あと10か月で自分は先輩方のようになれるのでしょうか。

へこたれる毎日ですが、先輩方、上級医の先生方は丁寧な指導をしてくださいます。本当に初歩的なくだらないかもしれない質問でも丁寧に教えてくださいます。自分は上尾中央総合病院では珍しく生気の薄い人間ですが、バイタリティにあふれた医師、メディカルスタッフに日々引っ張られるかのように踏ん張り精進しています。

来年、後輩ができる頃には、身体の猫背は改善がなくても、心の猫背が少しでも改善しているように努力を重ねていきます。